ときをかける団地

ー受け継がれる団地の在り方ー

令和３年度 卒業設計　令和４年１月　S187026 平川真衣　指導教員 井上亮　島根大学総合理工学部建築デザイン学科

1　はじめに

1 - 1　背景

社会の流れ

現在日本では、フロー社会から
ストック型社会へと移行

団地問題

老朽化と人口減少による空き住戸の増加が深刻
建て替えか用途の廃止が余儀なくされている

問題提起

一世代で終わりなのか
使い捨て団地

1 - 2　目的

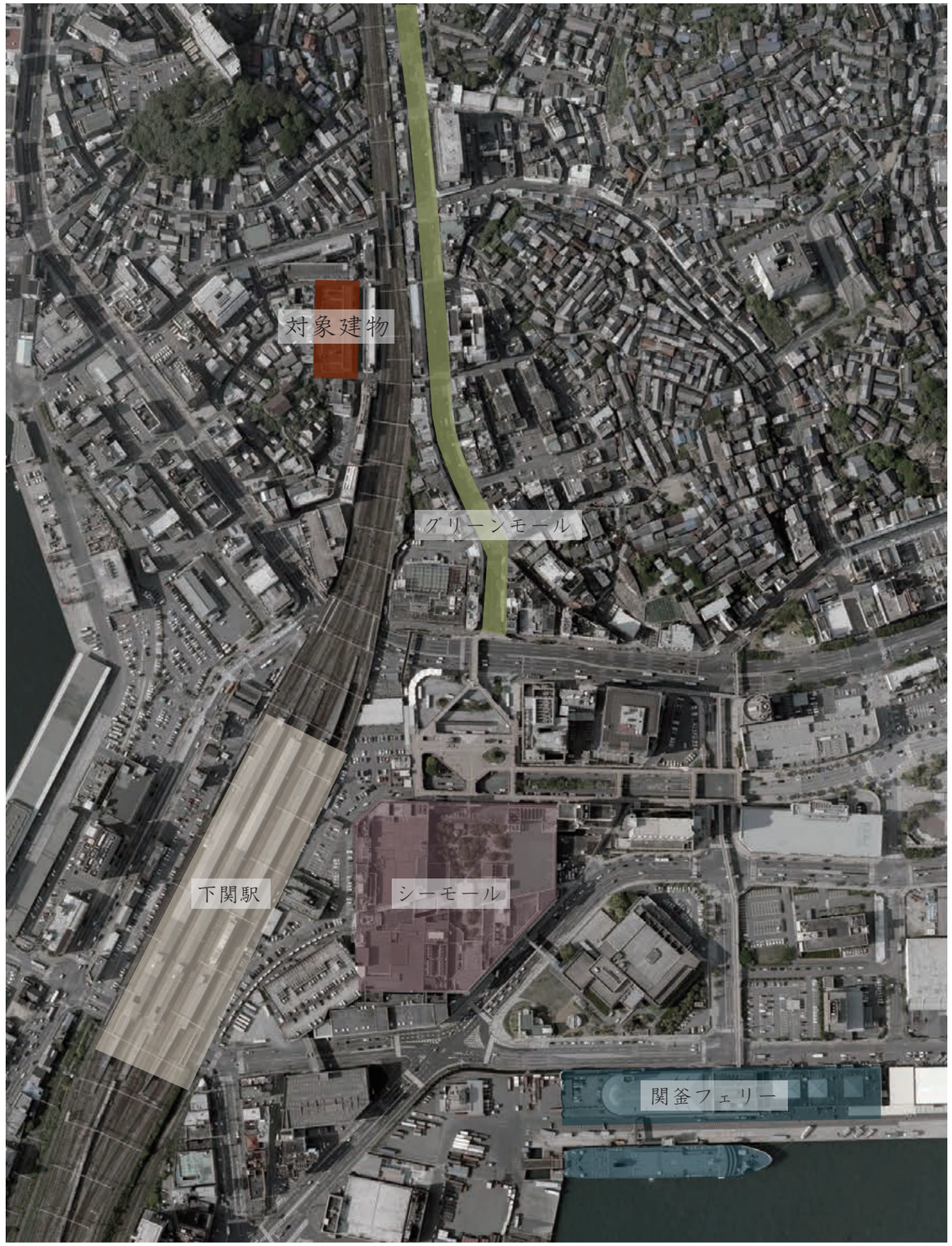
建築の存在価値

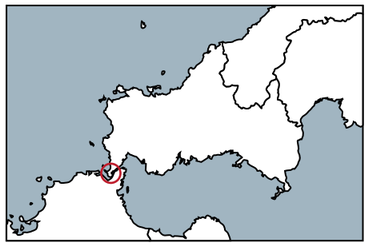
建築に記憶が残る ―― 建築を体感する

時代や都市に対応した
建築であるべき

”受け継がれる団地”を目指す

2　対象地　ー山口県下関市竹崎町ー





対象地は、山口県下関市竹崎町である。下関市は本州と九州及び大陸との接点でもある地理条件から、内外の交通の要衝として古くから栄えてきた。現在は下関と釜山を繋ぐ関釜フェリーが毎日運航されている。

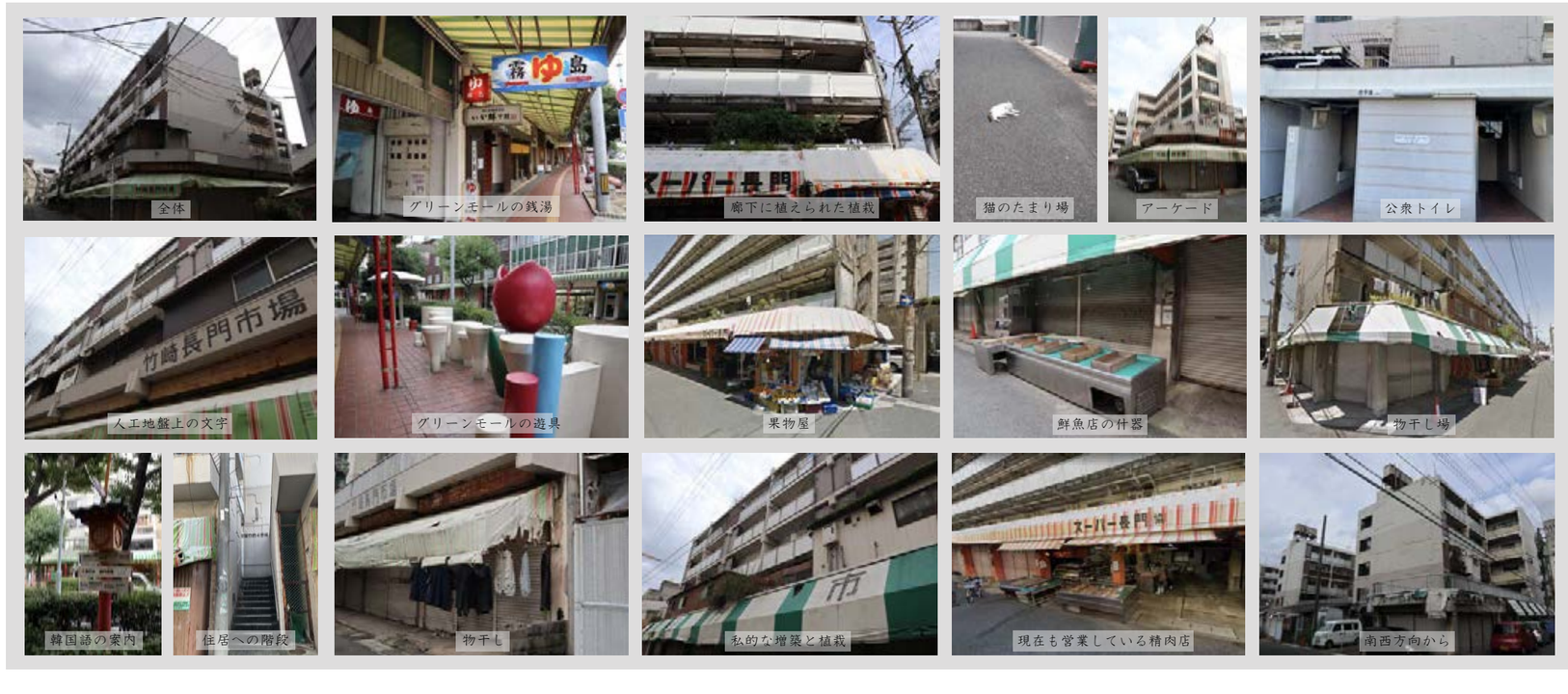
下関市は戦後１万人を超える朝鮮人が集住した。その後、竹崎町では闇市の名残で形成された商店街があり繁盛していた。１９６０年から都市改良事業が行われ、不法占拠者は１階が市場・２階以上が住宅となっている改良住宅に移ることとなった。

１９７６年には、グリーンモールと呼ばれる商店街が完成した。リトルコリアを思わせる通りになっており、韓国通貨ウォンが使用できる。毎年１１月２３日にはリトル釜山フェスタが開催され、ポッタリと呼ばれる行商人が関釜フェリーで行き来しているなど、現在でも韓国との強い繋がりが見られる。

その後、下関駅前にシーモールという商業施設が建設され、商店街としての活気を失っていった。現在、改良住宅は市場はシャッター街となり、住宅も老朽化し入居率も低下している。戦災から始まって建設された住宅が負の遺産となりつつある。

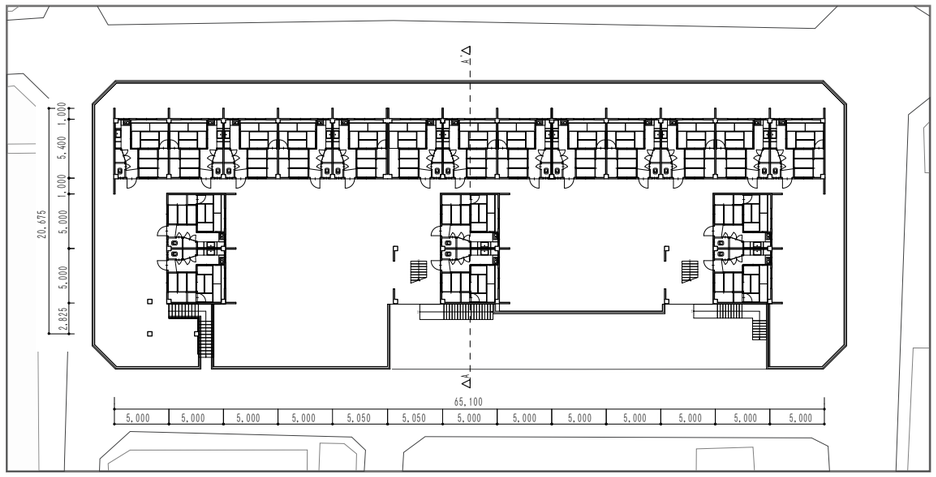
3　対象建物　ー竹崎改良住宅３・４号棟ー

3-1　現状

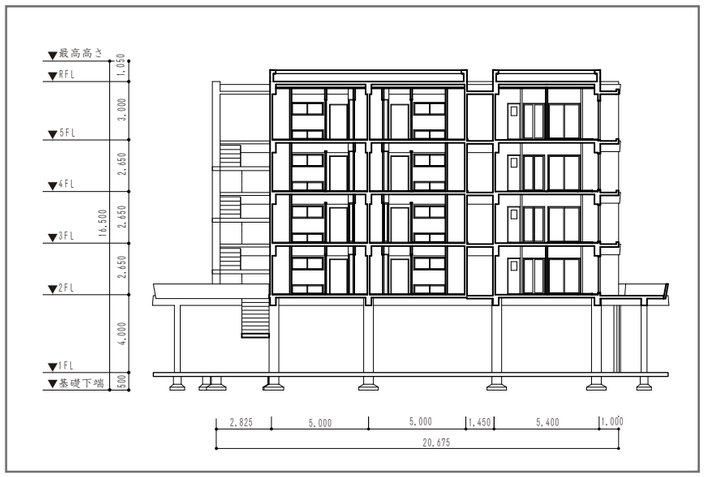


対象建物は、１９６３年に建設された竹崎改良住宅３・４号棟である。周辺には合計８棟の市営改良住宅があり、１階が店舗・市場、２階以上が住宅となっている。
建設当初は約１００軒の商店が集まった市場で、買い物客で繁栄していたが、駅前の商業施設建設と郊外化により、現在営業している店舗は７軒となっている。
人工地盤があり、私的な増築がいたるところに見られることが特徴としてあげられる。また近年では建物の雰囲気を活かし映画の撮影地として利用された。

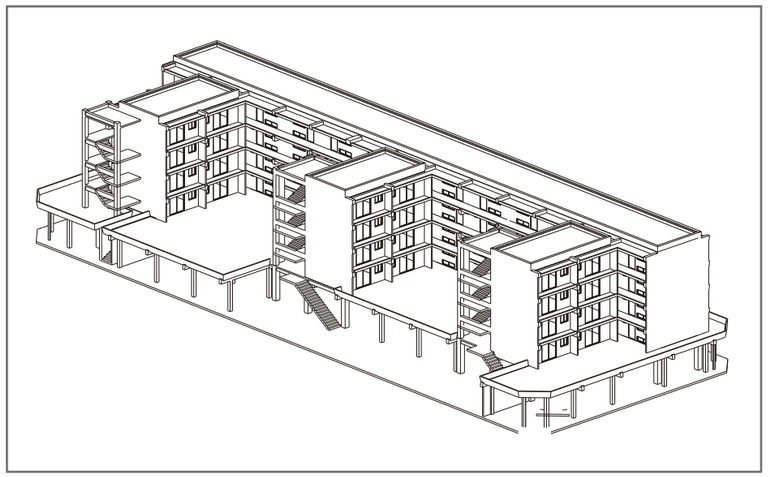
3-2　図面



２階平面図



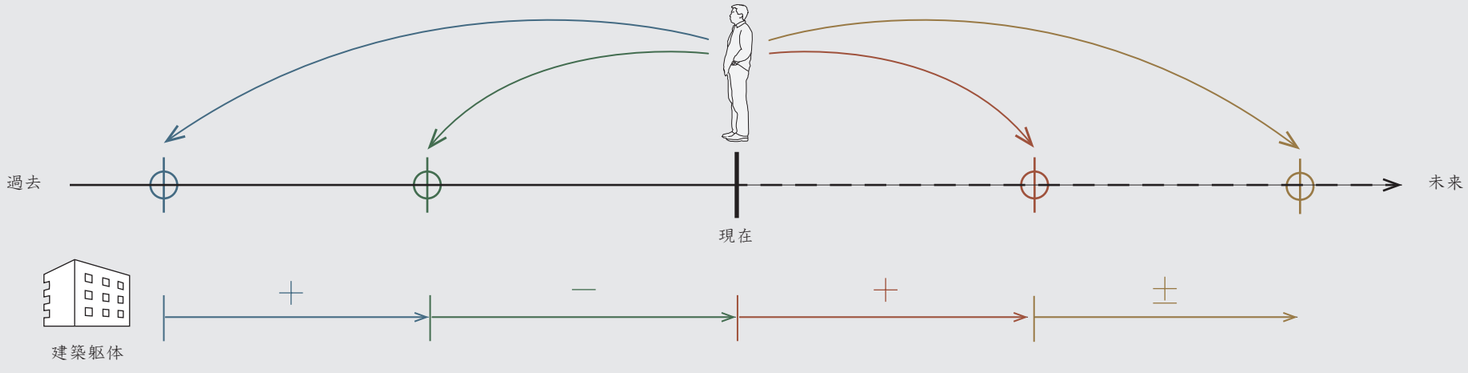
A-A'　断面図



アイソメ図

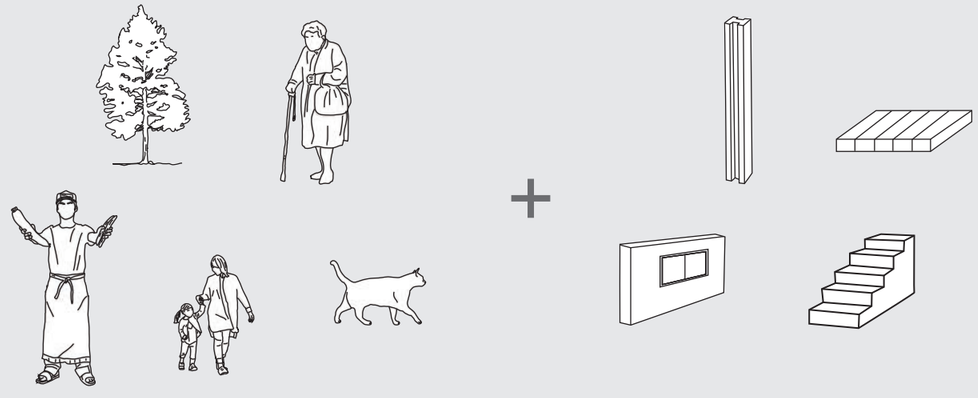
4 提案

4-1 受け継がれるシステム



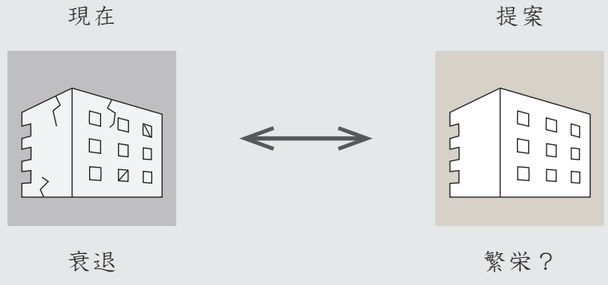
本提案は建設当初１９６３年の過去へ戻り提案するものである。現在までの５８年間に起こったまちの出来事に対して、躯体を増減築していくことで時代に適した建築を提案する。そして現在からの将来に対しては、起こると予想される状況に応じ、柱･壁･梁･床･階段などの建築的要素を増減築していく。老朽化した部材は取り除かれ、新しい部材が残ることで半永久的に受け継がれる。設計に際しては過去の変遷や現状を手掛かりに設計する。

4-2 人と建築



躯体の増減築がされると同時に住人やまちの人の行動が変化していく。そして躯体に人の記憶が残っていく。
住人の変化は人それぞれで、人だけでなく猫や植物などの変化も表れる。

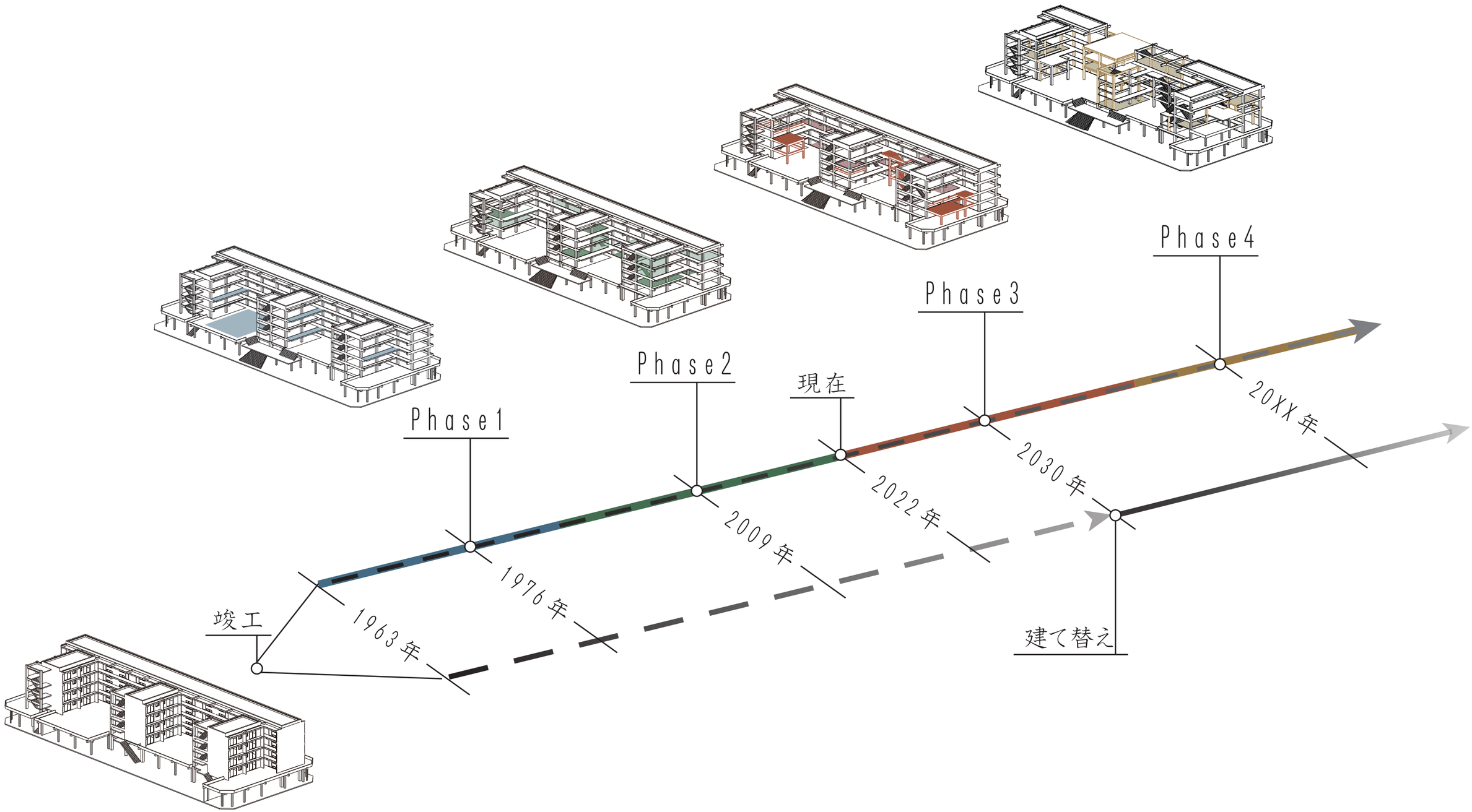
4-3 現在との比較



現在の団地がこれからの行く末と、建設当時の団地からの変遷を提案し比較する。
時代に対応すること、人の痕跡が残ることで、現実と異なる将来を辿るのかを検討する。

5 計画

1963 年から 20XX 年までに起こり、起こるであろう団地やまちに関わる事象を選定し、大きく変化がでる年代を４つ絞り提案する。４つの年代は①1970 年代②2000 年代③2030 年代④20XX 年代とする。
それぞれの概要として、①人工地盤の共用化　②空き空間活用　③生活の多様化　④都市空間の挿入とする。



6 設計 -Phase 1-

年表

1963年 竣工

1970年 関釜フェリー開通

下関と韓国釜山を繋ぐフェリーが運航開始。釜山からポッタリと呼ばれる担ぎ商い人が多く往来した。

1976年 グリーンモール完成

土地区画整理事業により密集市街地から買い物公園通りとなった。遊具や植栽などが至るところに配置され、ショッピングの合間に憩うことができるようになった。

1977年 シーモール完成

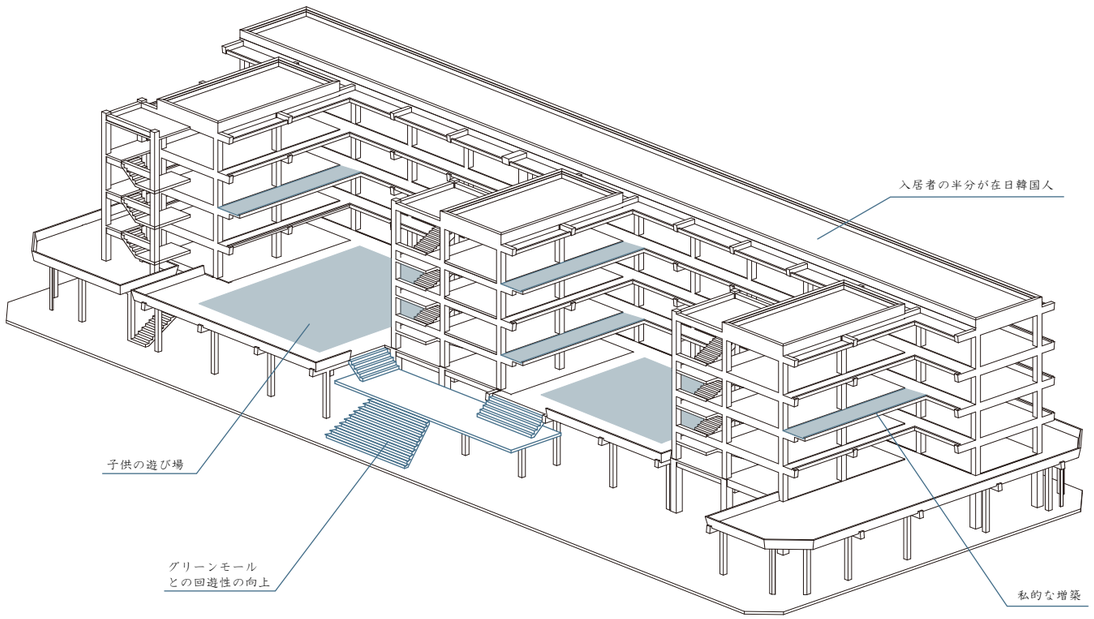
下関駅前に商業施設が完成。その影響で一時期、市場の売り上げが50%ほど落ち、そこから市場が衰退していった。

2000年

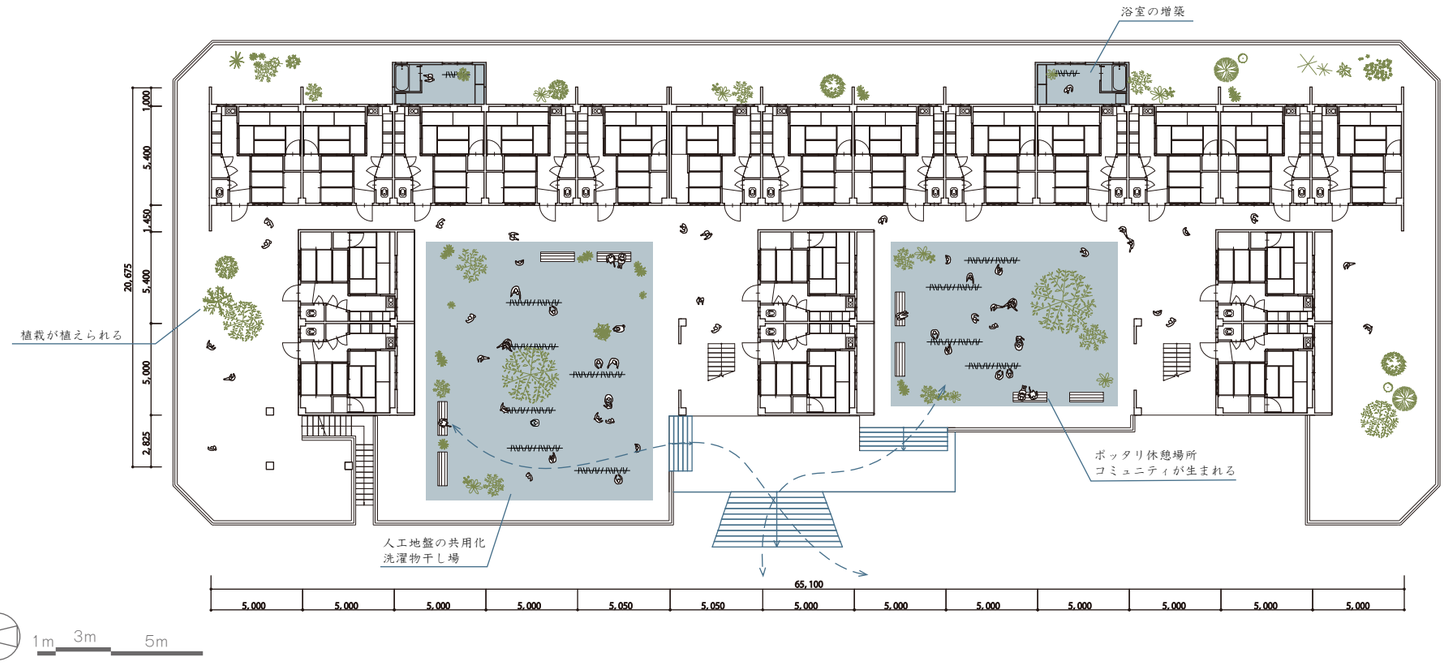
2030年

20XX年

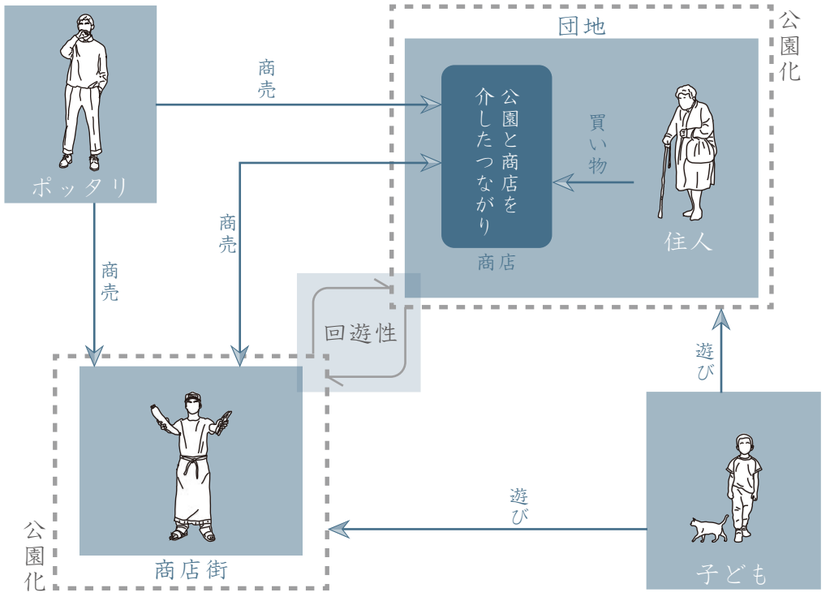
ダイアグラム



図面 －2階平面図－



相関図 ー公園化ー



パース

年表

1970年

2001年 リトル釜山フェスタ

グリーンモールで毎年11月23日に祭りが行われ始め、現在も続いている。屋台やキッチンカーなどが並び歩行者天国となり、舞台が設置され在日韓国人などによる民族舞踊が披露される。

2009年 中心市街地活性化法

空き家の活用・まちなか緑化・花いっぱい計画などの事業が行われた。

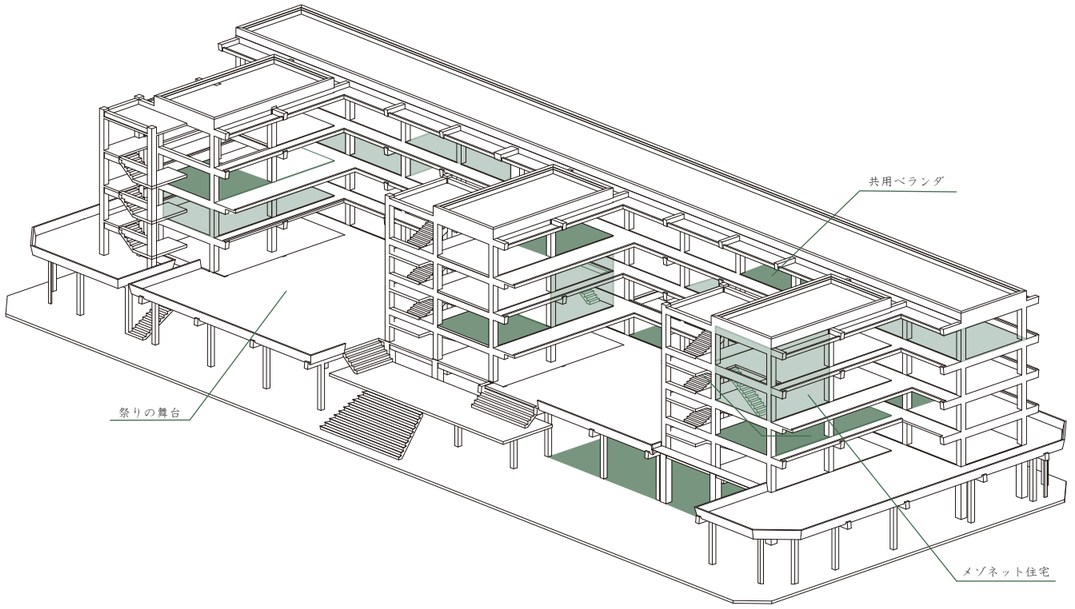
2010年 国際通り整備事業

グリーンモールはシーモールのオープン後客足が減って中心商店街としてのパワーを失った。商業施設との差別化を図るため韓国色を前面に打ち出した商店街を作る動きがあった。

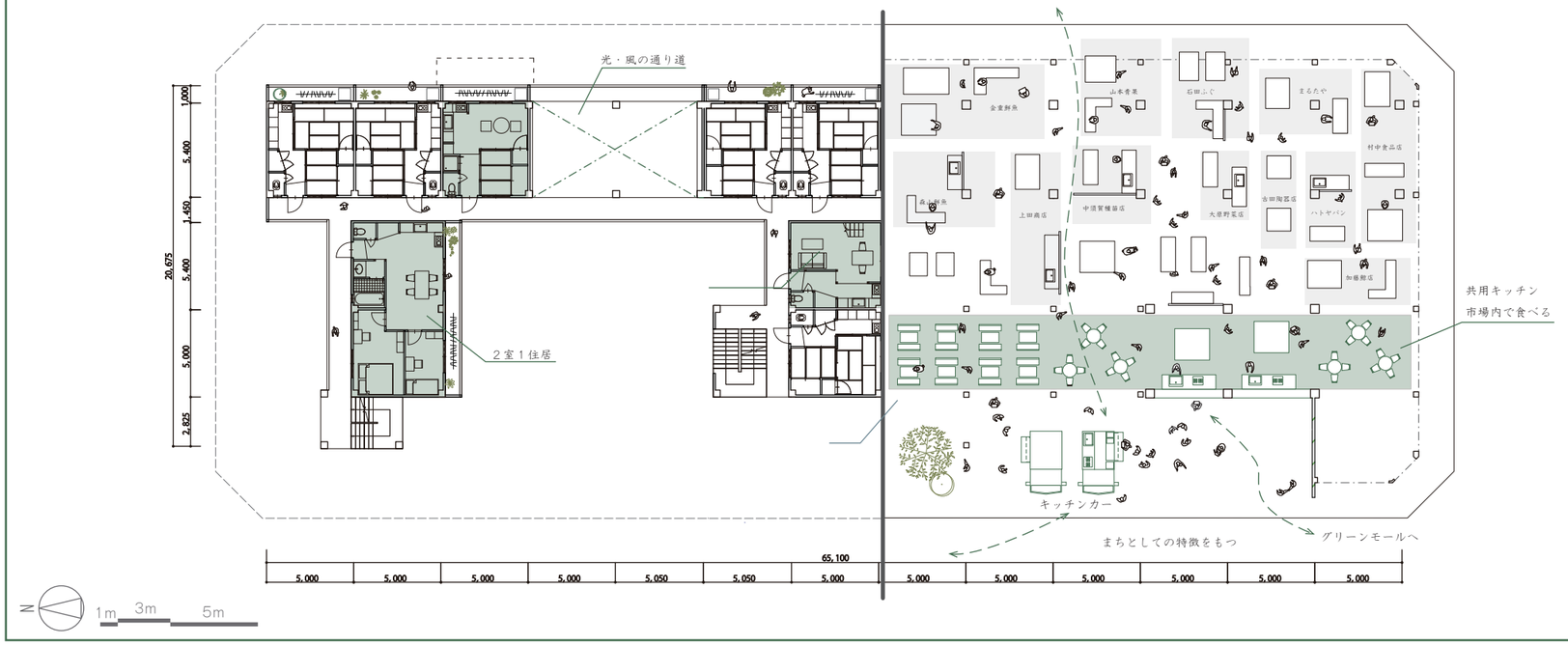
2030年

20XX年

ダイアグラム

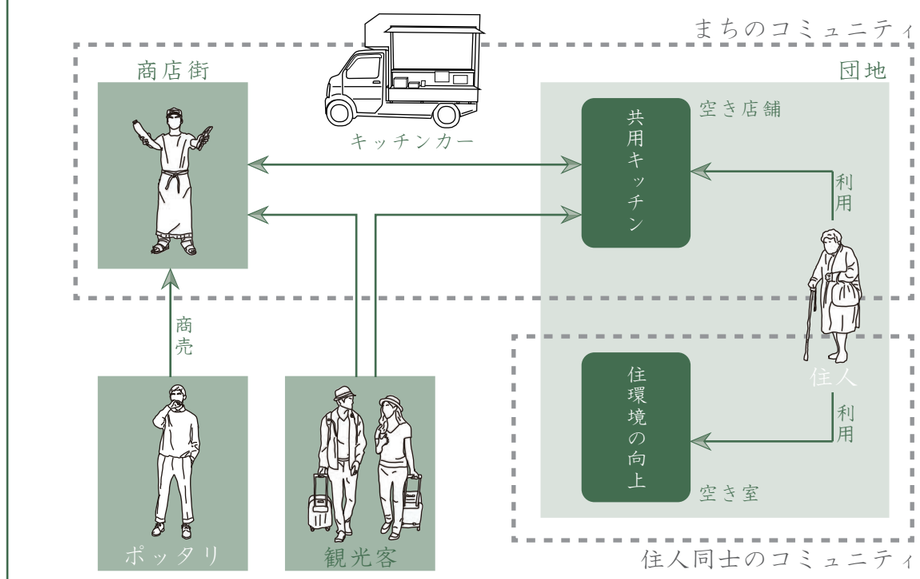


図面 －1・3階平面図－



6 設計 -Phase2-

相関図　ー共有ー



パース

6 設計 -Phase3-

年表

1970年

2000年

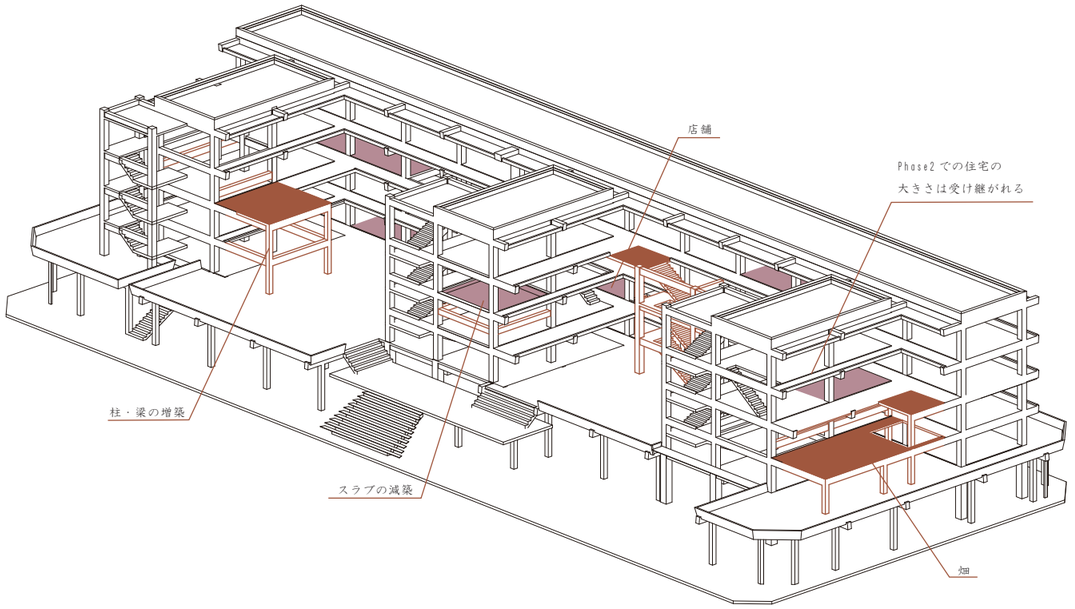
2020年 新型コロナウイルス流行
生活の多様化が進む。

2022年 生活の多様化
団地内とまちの高齢者が集まる施設や、シェアオフィス、店舗などの住居以外の機能が入り、まちとの関係性が広がり共用化が進む。

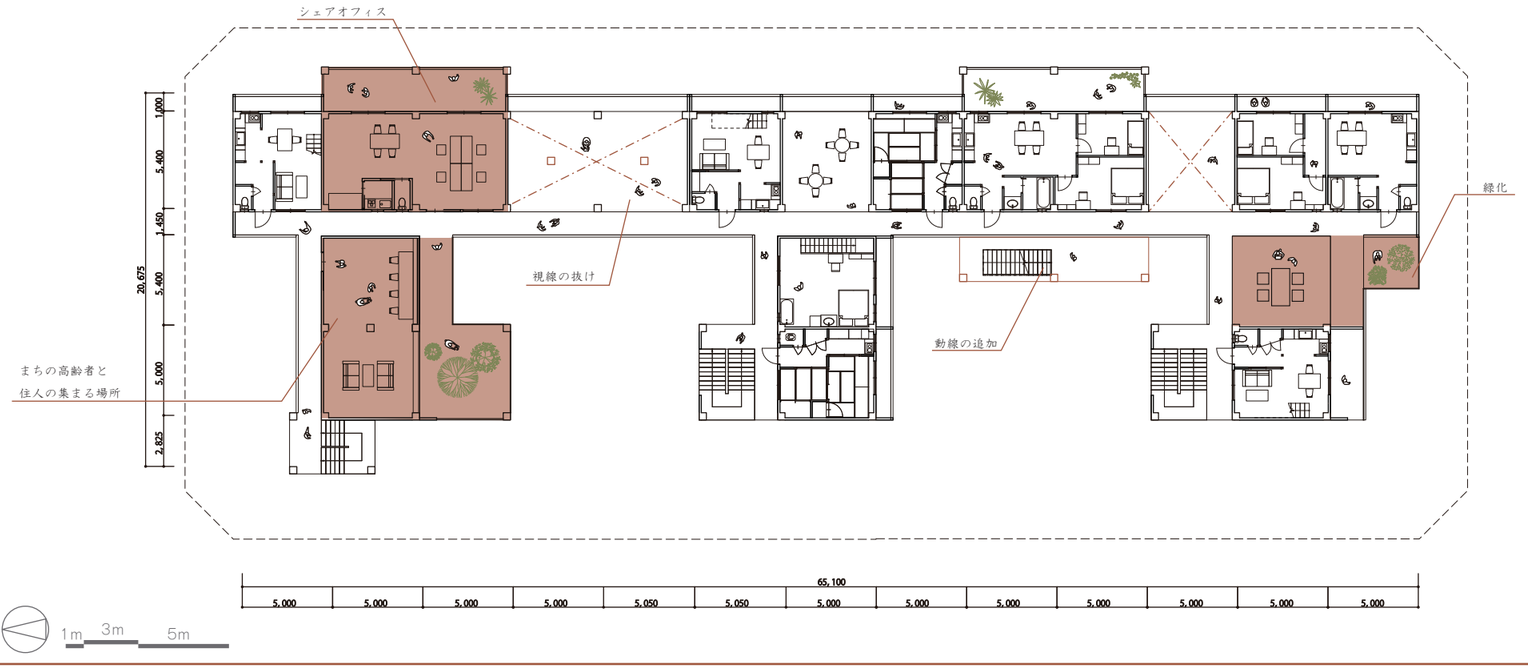
2030年 躯体の増減築
柱や梁など躯体が新しく追加され、住人やまちの人の行動が変わり始め、その躯体に記憶が残り始める。

20XX年

ダイアグラム

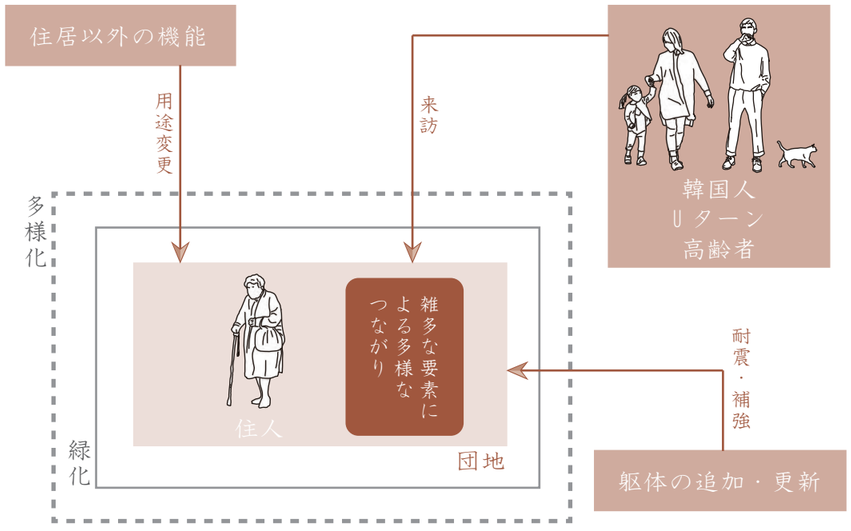


図面 －4階平面図－



6 設計 -Phase3-

相関図　ー多様化ー



パース

6 設計 -Phase4-

年表

1970年

2000年

2030年

20XX年 躯体の追加①

元の躯体は少なくなっていくが人工地盤は半永久的に変化しない。

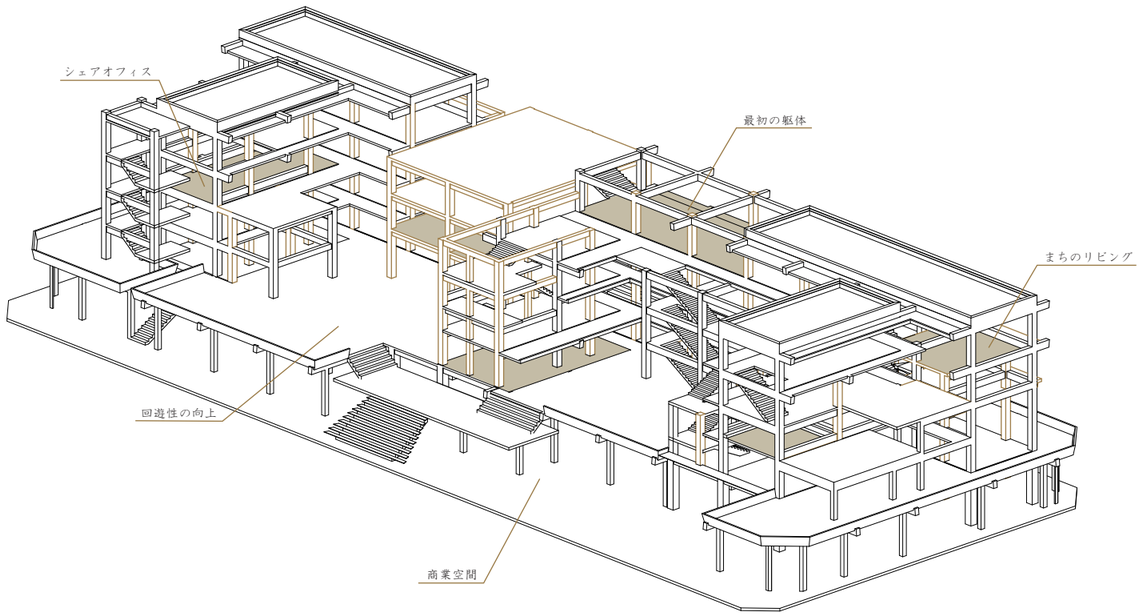
20YY年 都市空間の挿入

都市の空間が団地の中に挿入される。シェアオフィス・シェアハウスなどの共用空間が3階以上に入る。1・2階には商業空間と公共施設が入り、元の団地の使い方に戻っていく。

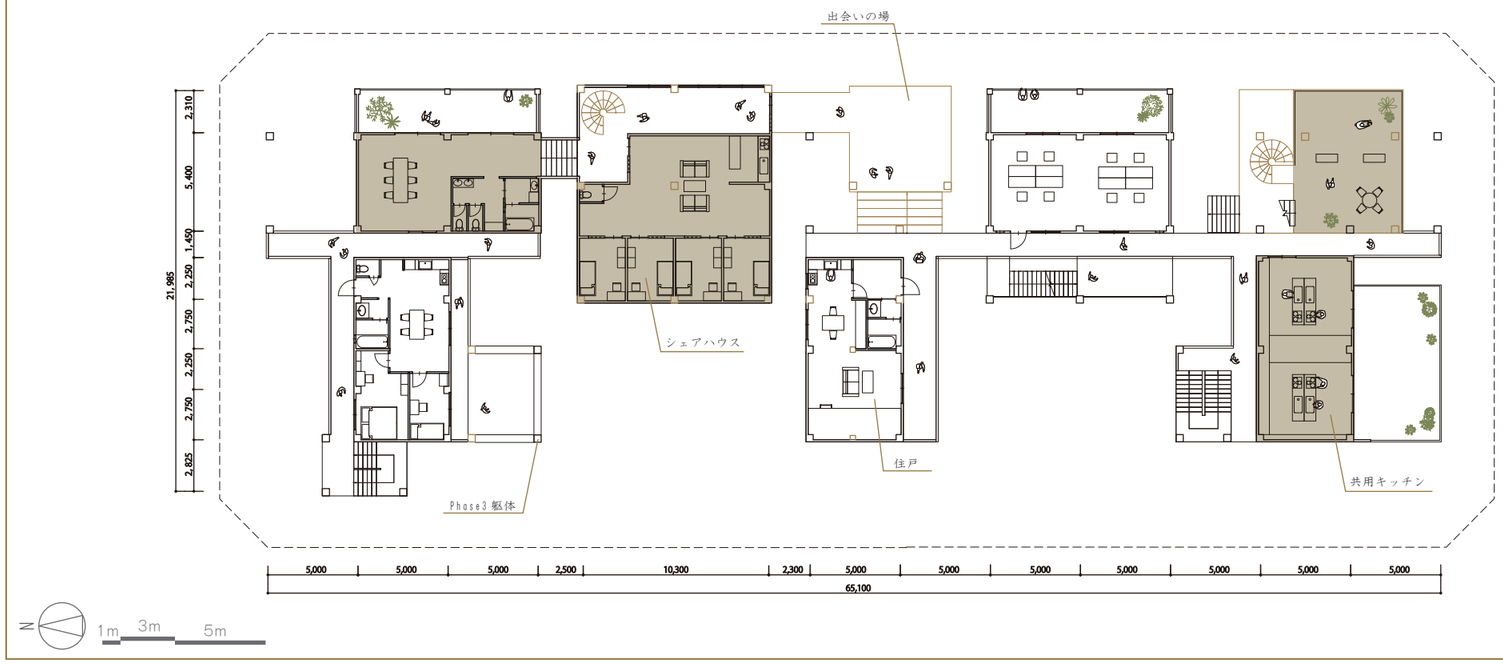
20ZZ年 躯体の追加②

繰り返し躯体が追加され変化をしてきた建築は、それぞれの時代の記憶が部材に現れる。そして今まで使われてきた躯体を見ることができる。

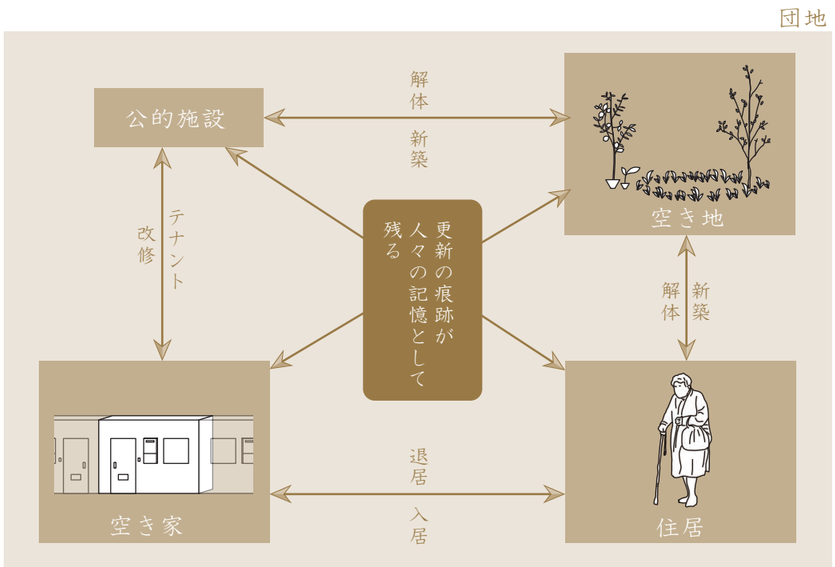
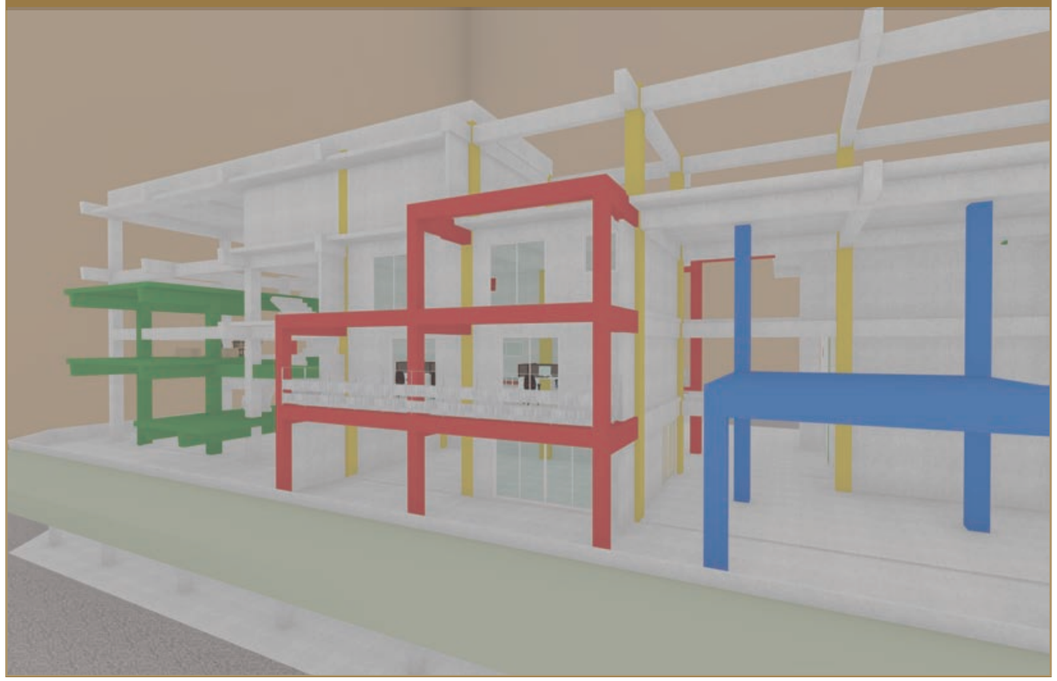
ダイアグラム



図面 －3階平面図－



相関図　ー更新ー



相関図　ー更新ー